



7/23 陸上と水中の生物を採集・観察
ナイペツ (内別) 川いきもの調べ



千歳の自然を知るイベントとして、市民協働事業《川の水・生物を調べよう～ナイペツ川いきもの調べ～》を名水ふれあい公園で開催しました。当日は、子どもたち14人が参加し、午前中は陸上のいきもの、午後はナイペツ川の中のいきものを採取しました。川の中に入る時の笑顔、魚を捕まえたときの自慢げな顔が印象的で、子どもたちからは「私は魚を10匹以上捕まえた」、「僕が一番最初に捕まえたんだよ」などの自慢話が聞こえてきました。この日は陸上生物13種、魚類3種(57匹)のいきものを採取し、講師陣の解説を聞きながら、観察することができました。

7/20 日ごろの訓練の成果を披露
消防職・団員訓練市長査閲



消防職員と消防団員の日ごろの訓練成果を披露する《千歳市消防職・団員訓練市長査閲》を千歳市防災学習交流施設(そなえーる)で開催しました。当日は、消防職員・消防団員あわせて165人が参加し、消防団員による、障害物を除去しながら火元を想定した標的を落とす応用注水訓練や、《自動心臓マッサージ器》を用いた救急処置訓練、建物の間をロープで渡る救助技術展示訓練、新千歳空港でサリンがまかれたことを想定したNBC災害対応訓練などを実践しながら実施し、会場は緊張感であふれていました。

7/9 清々しいウォーキングを満喫
水と緑を歩こう会



市は、健康づくりの一環として、ウォーキングを通じ運動を楽しむ《水と緑を歩こう会》を4年ぶりに開催しました。この日は天候にも恵まれ、2歳から87歳まで幅広い年齢層の参加者約100人が、そよ風が吹く新緑の青葉公園で心地よい汗を流しました。それぞれ1km、3km、5km、ノルディックウォーキング(5km)の4つのコースに分かれた参加者は、順位を競うことなく自分のペースで楽しく歩きました。ご夫婦で参加された方からは、「今年は前よりもペースが速かったかな」「年をとったから速く感じるだけよ(笑)、来年も参加できるように健康でいたいわね」など、楽しい会話があふれていました。



7/11 順調な生育状況を確認
農作物生育状況調査



横田市長をはじめ、市議会議員など関係者約25人が小雨の降る中、中央、幌加、東丘地区の畑で農作物の生育状況を確認するとともに、生産者の方と意見交換を行いました。東丘で種子用の小麦や大納言あずきを栽培する愛澤 尚弘さんの畑を調査したときには、愛澤さんから「今年は気温が高く、天候にも恵まれて作物の生育が早くなっています。特に小麦の生育が早く、収穫が例年より早まりそうです」との説明があり、関係者の皆さんも納得の表情をうかべていました。調査実施日に降った雨は、農作物にとっては恵みの雨だったのかもしれないね。

7/15 ホクレン・ディスタンスチャレンジ2023
雨中の青葉公園を激走



毎年7月、道内5市で行われるホクレン・ディスタンスチャレンジ。その最終戦が青葉陸上競技場で開催されました。全国から、世界をめざすトップランナーが集まるこの大会。テレビでおなじみの実業団選手、学生選手たちも多数出場し、多くの声援が会場に響きました。この日はあいにくの雨模様で、風も強いという悪条件の中、男子5000m Aを制したのは、イマヌエル・キプチルチル選手。レースを振り返って、「最初の1kmはきつかった。3km以降は集団について、いいタイムを出したいと思って走りました」と分析。また今後の目標を問われ、「自己ベストにチャレンジすること」を挙げていました。



今月のうごき
8-1 現在

《総人口》
97,839人(+82)
男性 49,713人(+124)
女性 48,126人(-42)
《世帯》52,104世帯(+178)

()内は、前月との比較です。

Vol. 04 村民大会

Chitose Airport 100th anniversary

「すると、あの一带を整地する必要があるのか」「そうだ。それには村民の力を借りるしかあるまい」村長の川合新三郎と、村議の渡部栄蔵。2人は酒井から告げられた着陸場の造成という課題をどうやってクリアするか、話し合っていました。「みんなの賛同を得られるかどうかだ。村民大会を開いて、話してみよう」そして迎えた村民大会。議題は「着陸場を造るか否かの件」というものでした。川合は集まった村民の前に立つと、演説を始めました。「わが村に飛行機がやってくるかもしれません」村民のどよめきが響く中、川合は続けます。「そのために、みなさんの力が必要なのです。我々の手で、この地に着陸場をつくらうではありませんか」そして畳み掛けるように、「札幌に映画を見に行くなら、汽車賃と昼食代を合わせて3円はかかります。一方、整地作業の日当が1日1円20銭として、2日間の作業で2円40銭。つまり、映画よりも安く、珍しい飛行機を見ることができのです」飛行機を見たことのない村民がほとんどであった中、この説明は実に的確でした。川合らの提案は人々の賛同呼び、着陸場の造成を全会一致で決定。こうして村民大会は幕を下ろしたのです。

村民会議

手づくりの着陸場から新千歳空港へ
開港100年の歴史を振り返る

ちとせ空港
百年物語

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851